

香料・柔軟剤被害者の声

香料に苦しむ化学物質過敏症患者のお二人に香料被害の実態をご報告いただきました。
プライバシーへの配慮から、匿名でのご報告とさせていただきます。

1(女性) 将来を奪う化学物質過敏症

化学物質過敏症患者となって

私は15、6年前から化学物質過敏症になりました。最近、感じることは、深呼吸できる場所がなくなったなあという事です。4、5年前まで、冬場に限っては、朝、窓を開けて、外気を部屋に入れると気持ちよく深呼吸ができましたが、最近は、冬場の早朝でも香料のにおいがして、さっさと窓を閉めなければいけません。買い物に出かけても、強い香りを身にまとった人とすれ違うだけで、クラクラしてしまいます。

落ち着いて、呼吸ができる場所がほしいとつくづく思います。

長女も化学物質過敏症に

私には高校を卒業したばかりの18歳になる長女がいます。彼女は、10年前から化学物質過敏症です。娘の体調が大きく悪化したのは、5年前、中学2年生の時でした。強い香りのついた柔軟剤を使っている人が増えてきたことも原因の一つですが、それに加えて、思春期をむかえた子どもたちが、自分のにおいを気にしはじめ、制汗剤を体育や朝部活の後に使うようになったことも大きな原因の一つです。制汗剤は、スプレー式の物が多く、香料が教室中に充満し、娘は身体のだるさ、偏頭痛を訴え、別教室で待機したり、早退したりすることが増えるようになりました。

香料があふれる高校の教室環境

高校に入ってからの方が、教室のにおい

はひどくなったように思います。今どきの子ども達が、どれだけの種類のにおいをつけているかご存知でしょうか。シャンプー・リンス、整髪剤、洗顔料、歯磨き粉、化粧水、リップにハンドクリーム、衣類の洗剤と柔軟剤、制汗剤、荷物や靴には消臭剤と、10種類以上のにおいを身にまとっています。これだけのにおいを身にまとった生徒たちが、1日中、冷暖房完備でほとんど換気されることのない教室にいるわけです。教室のにおいがどうなるか想像がつくと思います。娘は高校に入ってから、教室で授業を受けるとフラフラして集中力がなくなり、吐き気や頭痛などの症状が頻繁に出るようになりました。そのため、ほとんど別室で自習をし、補講をしてもらったり、テストは窓を開け放った別教室で受けたりなど、学校側の理解と協力によって、なんとか卒業することができました。

将来を奪う化学物質過敏症

一度、化学物質過敏症を発症してしまうと、人生の幅が大きく狭められてしまいます。みんなと一緒に普通に学校生活を送ることも、アルバイトをすることも、友達と遊びに行くことも難しくなります。進学や就職すらままならなくなります。娘のような子どもをこれ以上増やしてよいわけがありません。しかし、実際には、子どもの友人にも強い香りを嗅ぐと、お腹や頭が痛くなったり、くしゃみが止まらなくなったりする子もおり、化学物質過敏症の予備軍は増えていると思われます。

2(男性) 香料被害の現状について——良い香りに隠されている有毒物質

ある日突然

先ほどから目がチクチクして鏡を見ると何も入っていません。目を洗ったら楽になりましたが、しばらくすると同じ状態です。玄関の扉を開けて外に出ると、甘酸っぱい柔軟剤のにおいが漂っています。私がこのように合成香料に過敏になったのは、2007年夏に職場を異動してからです。秋になると、激しい咳や涙が出るようになり、産業医に相談に行くと「合成香料アレルギー」で、「ごく微量でも症状が出る」と言われました。

定年退職してしばらくは自宅で症状も出ませんでした。周りに家が建ってくると流行の強いにおいがする柔軟剤を使う人が増え、ほぼ毎日柔軟剤臭に悩まされるようになりました。

香りの影に隠された有毒物質

●自宅の環境測定

体調が悪くなる原因物質を分析できないか環境分析会社3社に相談したところ、2社から返事が来ましたが、物質名が判明していないと不可だったり費用が莫大だったりと個人では無理でした。

そこで、NPO 法人 VOC 研究会からケムキーという米国製の有毒ガス検知器と簡易ガスクロマトグラフを借用し、指導を受けて自宅室内と外気の分析を行いました。

その結果、ケムキーで猛毒のアレルギー物質のイソシアネートを検出しました(図1の○部)。

さらにガスクロマトグラフでは、柔軟剤成分が室内に侵入していることが確認できました。

●柔軟剤・洗剤と消臭剤からイソシアネート

柔軟剤などからイソシアネートが出ていることを確かめるため、精製水で希釈・攪拌した液を有毒ガス検知器のケムキーで測定しました。

その結果、最近の香り付き柔軟剤、香り

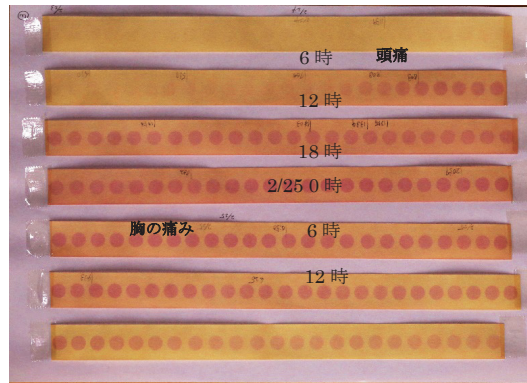


図1

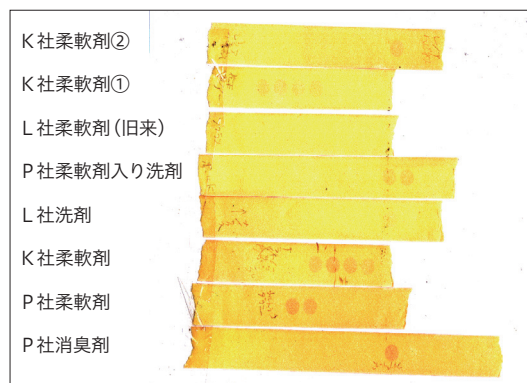


図2

付き柔軟剤入り洗剤、消臭剤から猛毒のイソシアネートが検出され、更に確認を進めています(図2)。

イソシアネートの毒性は ごく微量でも危険

国際化学物質安全性カードによると、イソシアネートの許容濃度は0.005ppmとトルエンの1万分の1。ばく露の急性症状は「吸入：腹痛、咳、吐き気、息切れ、咽頭痛、嘔吐(症状は遅れて現われることがある)」「皮膚：発赤、灼熱感、痛み」「眼：発赤、痛み、かすみ眼」とあり、私の症状とほとんど一致します。

また、注には「この物質により喘息の症状を示した者は、以後この物質に接触しないこと。許容濃度を超えても、臭気として十分に感じないので注意すること」とありました。

北里研究所病院での診察を受けたところ、脳障害や精神的なものでなく化学物質に過敏になっていると診断されました。今まで何とも無かった妻も同じ環境で暮らし始めているので徐々に症状が出始めました。